



市民ネットワーク鶴ヶ島は  
大野ひろ子を  
市議会に送っています



3月議会報告 2016. 4  
発行 / 市民ネットワーク鶴ヶ島  
鶴ヶ島市富士見3-27-106  
<http://www.tsuru-net.org/>  
eメール: [tsurunetorg@gmail.com](mailto:tsurunetorg@gmail.com)



# 在宅介護世帯の約6割は、 お互いが60歳以上。

日常生活で介護を必要としないでいられる健康寿命は、2013年時点で男性71・19歳、女性74・21歳です。平均寿命との差が男性で約9年、女性で約12年あります。

平均寿命と健康寿命との差はそのまま介護が必要な期間でもあります。

## 増える老老介護

このことは、高齢化した子が、より高齢化した親を介護したり、高齢者夫婦が互いの介護を担う老老介護世帯が増えていることも示しています。

核家族化も進み、実際に、在宅介護世帯の約6割が、介護する側とされる側のどちらも60歳以上とされています。

また、認知症を患っていても普段どおりの生活が送れるので介護申請をしていないという方もいます。そのため、お互いが認知症の高齢者世帯も増えていて、実態を把握できないのが現実です。

## 疲弊する在宅介護の声

4月、「自宅で介護している人の約7割が精神的・肉体的に限界を感じている。」という調査結果が報道されました。さら



に、2割の方が、心中を考えたことがあると回答しています。

5年、10年、閉ざされた空間で介護を担ううちにマイナス思考に陥ることが、浮き彫りとなっています。

介護保険制度は、家族だけでなく社会全体で介護を支える仕組みです。家族以外のアドバイスやサポートを受けられることができれば、何か解決の糸口が見つかるとは思いませんか。

## ひとりで抱え込まない

鶴ヶ島市も、介護者の支援を念頭に、認知症ケアパスやオレンジカフェを開催しています。ひとりで抱え込まないで、元来、市民に身近な存在の市の高齢者福祉課や、地域包括支援センターをもっと頼りにしましょう。

鶴ヶ島市には、他に先駆けて取り組まれてきた地域支え合い協議会の活動もあります。トータルなケアシステムの完成はまだ先になります。

困ったときに話せる地域の仲間づくりは、いつから始めても遅くありません。

\* 認知症ケアパスとは、認知症の人と家族、地域・医療・介護の人が目標を共有し達成するための連携の仕組み。

\* オレンジカフェとは、認知症の人と家族、地域の人、専門職など誰でも参加ができて集う場所。